

前回（第2回）会議の概要について

○メール便の重要性

- ・市内の図書館間を公用車で配送するシステム（メール便）により図書館の連携が機能している。
- ・近くで本を受け取れるメール便の活用や、本の宅配も一つのアイデア。
- ・メール便の分析が必要。

○予約貸出の浸透

- ・予約して自分のアクセスポイントで受け取ることが普及している。

○学校図書館と市立図書館の連携

- ・ブックトーク、ビブリオバトル、蔵書の団体貸出など学校と市立図書館の連携が図られている。
- ・学校の読書教育においては、司書の役割が重要。

○情報リテラシーの重要性

- ・これから社会に出る子供達が、自分が必要とする情報を見極める能力を作るためには、本やインターネットでの情報を見極める力が必要。

○図書館としての機能

- ・床面積400㎡に満たない図書館は、サービスを一つの図書館で完結することが難しい。
- ・生涯学習意識調査アンケートでは、図書館の再編等により生涯学習の場所がなくなること、高齢者の移動手段が課題。
- ・自宅に居ながら又は地域の小さなサロンなどで学び直しができる環境が必要。
- ・公共交通を今以上に整備することは難しいため、サービス側が自宅に近寄る考え方が妥当（非来館型図書館の検討）。

○小中高生の利用率低下の要因と方策

- ・ 原因の一因は交通手段。将来的には、図書館に行かなくても利用できるような体制（インターネット等）が必要。
- ・ 若い世代には、ライトノベルやマンガを中心にした電子図書館の導入。また、高齢者もインターネットを利用しており、移動の必要がなく、利用時間も問わない電子図書館が有効であり、将来的に導入を検討する。本の購入は、調べ学習や何人かで集まって利用する本の充実で、電子図書館とのすみ分けができる。
- ・ 若者の1日（24時間）をどう使っているかの分析が必要。
- ・ 現在の8館に歩いていける人はわずかであり、大部分が自動車等を利用。

○特色ある図書館づくりの必要性

- ・ 8つのすべての図書館に同じような本が置かれており、今後は特色を持たせることが必要。
- ・ ボランティアも一つの図書館に集まっても良い。

○小・中・高生、大人の居場所づくりの必要性

- ・ 図書館は、学習する場や居場所的な役割を担っており、それが保護者や学校の負担軽減につながる。また、図書館でなかったとしても、静かに学習できる場所が必要。
- ・ 大人の学習スペースなど居場所も必要。
- ・ 図書館が駅の近くにあると中高生が帰宅する際に居場所や学習スペースとして活用できる。

○利用者の動きから見た図書館

- ・ 8つの図書館の利用者の動き（人数ではなく比率）として、当該地区以外の利用者が多い図書館は、利用者が魅力を感じている。また、700㎡～1,000㎡くらいが図書館らしさを保つ。

○先進的な図書館の機能

- ・ 2015年以降は、図書館単体で作られていない。市民の活動や体験の場所、子供から大人まで学習できるスペースの確保、市民サークルが活動する人や地域に役立つスペースが用意されている。

○当委員会の役割

- ・ 図書館という名前が変わってもその場所で、何ができるのかを考えることが役割で、その建物をどのように活用していくかを考えるのは、あくまでも住民であり、それを支援するのが自治体。